

第2期絵本の里けんぶち子ども読書推進プラン

(剣淵町子ども読書活動推進計画)



平成31年4月

剣淵町教育委員会

も く じ

第1章	子ども読書推進計画策定の基本的な考え方	1
1	子どもの読書活動の意義	1
2	道の動向	1
3	計画の対象と各期の特徴	2
第2章	剣淵町子ども読書活動の現状と課題	4
1	絵本の里けんぶち子ども読書推進プラン（第1期）の成果と課題	4
(1)	読書活動アンケート調査結果	4
(2)	成果と課題	8
2	計画の具体的な方針	9
(1)	家庭・地域・学校・保育所それぞれにおける取り組みの充実と連携	9
(2)	絵本の館・学校図書室の機能の整備と充実	9
(3)	読書・読み聞かせボランティアの育成と支援	9
第3章	子どもの読書活動推進のための取り組み	10
1	家庭・地域における子どもの読書活動の推進	10
(1)	家庭における取り組み	10
(2)	地域における取り組み	10
2	絵本の館・学校図書室における子どもの読書活動の推進	11
(1)	絵本の館における取り組み	11
(2)	学校図書室における取り組み	11
3	読書・読み聞かせボランティアの活動支援	11

第1章 子ども読書推進計画策定の基本的な考え方

1. 子どもの読書活動の意義

子ども（おおむね18歳以下の者をいう。以下同じ）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上でなくてはならない大切な活動であります。

読書をすることは、子どもたちに考える力や豊かな情操を育み、幅広い知識の習得、人間関係の基礎の形成をしていきます。また、子どもたちが変化の激しい現代社会に主体的に対応し、適応していくための生きる力として必要な自ら課題を捉え、考え判断し、それを表現する資質や能力を育みます。

このように読書の果たす役割は極めて重要であり、子どもたちが自主的に読書活動ができるよう、家庭・地域・学校を通じて様々な方々と連携し積極的に子どもの読書活動を推進していくことが必要です。

2. 道の動向

道では以下の2つの「基本目標」と5つの「推進方策」の下、推進計画が進められています。

基本目標 1

【家庭・地域・学校等を通じた社会全体での子どもの読書活動の推進】

子どもの読書週間を定着させ、自主的な読書活動を推進するためには、家庭・地域・学校等、社会全体で読書を推進する取組を進める必要があります。そのためには、家庭、地域、学校等のそれぞれの役割を明確にするとともに、関係機関や団体等と連携し相互に協力しつつ、子どもの発達の段階に応じて多様な取組を進めていくことが重要です。

推進方策 1-1 家庭における読書活動の推進

○「家読^{うちどく}」の推進

※家読とは家族で読書の習慣を共有することで、読み聞かせをしたり、家族みんなで好きな本を読んで、
読んだ本について話したりすることです。

推進方策 1-2 地域における読書活動の推進

○読み聞かせ、ビブリオバトル等の実施

※ビブリオバトルとは参加者同士で本を紹介し合い、もっとも読みたいと本を投票で決める催し。

○ブックフェスティバル、学校行事等の実施

○読書習慣や催し等の情報提供

推進方策 1-3 学校等における読書活動の推進

○ボランティアや公立図書館との連携

○学校図書館を活用した学習

基本目標 2

【子どもの読書活動をするための読書環境の整備】

子どもの読書活動を推進するためには、北海道の全ての子どもが、好きな本を手にとったり、必要な資料を調べたりすることができる、望ましい読書環境づくりを進める必要があります。

そのためには、道、市町村、学校、関係機関・団体等が相互に連携したり、支援したりしながら、計画的に整備を進めることが重要です。

推進方策 2-1 地域における読書環境の整備

- 図書館資料の整備
- 子どもの利用のためのスペースの確保
- 子どもの読書活動推進計画の策定等

推進方策 2-2 学校図書館等における読書環境の整備

- 学校図書館図書標準の達成等
- 基準に基づく図書の選定・廃棄・更新
- 学級文庫など校内読書環境の工夫
- 学校司書や司書教諭の資質向上

3 計画の対象と各期の特徴

この計画は、0歳からおおむね18歳を対象とします。

また、子どもの読書活動は、発達の段階に応じて取り組むことが重要であることから、この間を大きく4つの期間（乳幼児期、小学生期、中学生期、高校生期）に分けて、各期における特徴に応じて推進します。

乳幼児期〔0歳～6歳〕「本に出会う」

3歳までには、徐々に自分の意思や欲求を言葉で表現できるようになるとともに、文字の存在を意識し絵本に興味を示すようになります。この時期は、絵本や物語などに親しみ、保護者等の周りにいる大人からの語りかけや言葉のやりとりを通じて、気持ちを通わせることが大切です。

4歳以上になると、徐々に日常生活に必要な言葉が分かるようになり、かな文字も読めるようになってきます。この時期は、絵本や物語を読んでもらうことなどにより、その内容を自分の経験に結び付け、想像を巡らせるなどして、読書の楽しみを十分に味わうことが大切です。



小学生期〔6歳～12歳〕「本に親しむ」

低学年は、本を読む習慣が付き始める時期であり、文字で表された場面や情景をイメージすることができるようになってきます。この時期は、読み聞かせなどにより、いろいろな本に親しんだり読書を楽しんだりすることが大切です。

中学年は、多くの本を読むことができるようになってくるとともに、本を終わりまで読み通すことができるようになってきます。この時期は、幅広いジャンルの本に親しみ、読書を通して必要な知識や情報を得るようにすることが大切です。

高学年は、目的に合った本を読むようになり、内容を評価することができるようになってきます。この時期は、日常的に読書に親しみ、読書を通して自分の考えを広げるようにすることが大切です。



中学生期〔12歳～15歳〕「本から学ぶ」

中学生期は、多くの本の中から自分に合った本を選択することができるようになってきます。また、共感・感動する本に出会うと、何度も読むようになります。この時期は、本や文章には様々な立場や考え方が書かれていることを知るとともに、読書が自分の生き方や社会との関わり方を支えてくれることを実感することが大切です。



高校生期〔15歳～18歳〕「本と生きる」

高校生期は、読書の目的や資料の種類に応じて、適切な読書技術によって読むことができるようになってきます。この時期は、自分の読書生活を振り返り、読書の幅を広げるとともに、読書習慣を身に付け、生涯にわたって読書に親しむようにすることが大切です。



第2章 剣淵町子ども読書活動の現状と課題

1 絵本の里けんぶち子ども読書推進プラン（第1期）の成果と課題

平成26年度の第1期計画策定後の子どもの読書活動推進の成果と課題、また現状についてまとめ、第2期計画推進における具体的な方針を定めます。

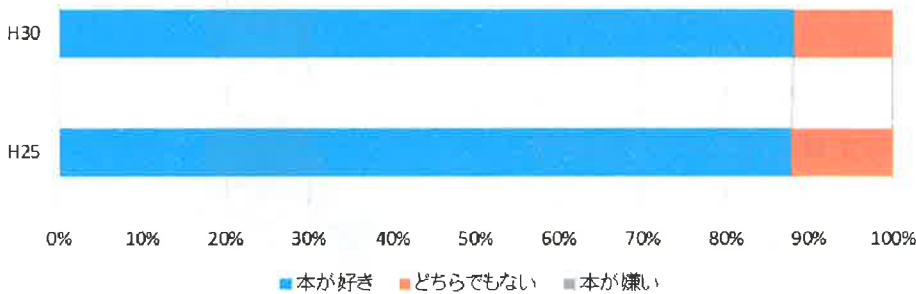
平成30年6月に下記のとおり、町内の小学校、中学校、高校および幼児の保護者を対象にアンケート調査を実施しました。

対象者	小学生	中学生	高校生	乳幼児保護者
対象者数	118名	87名	83名	79名
回答者数	95名	86名	79名	51名
回答率	80.5%	98.9%	95.2%	64.6%

対象機関：剣淵小学校・剣淵中学校・剣淵高等学校・町内在住の乳幼児の保護者

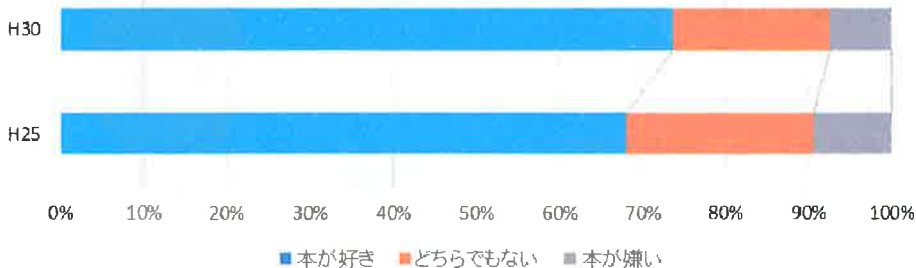
(1) 読書活動アンケート調査結果

本への関心について(乳幼児)



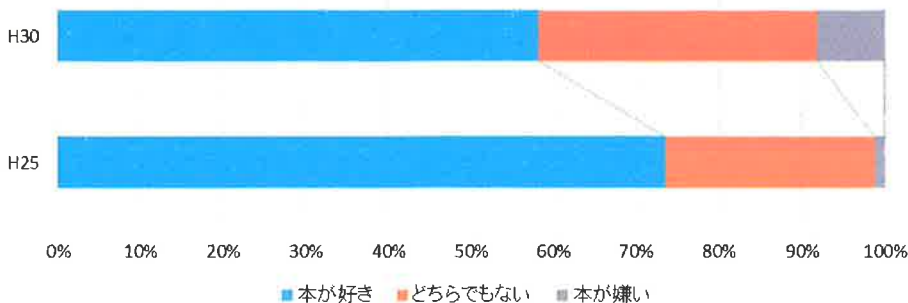
5年前の調査と数値は同じ。まだ本に興味を示さない赤ちゃんや違う遊びを好む子どもがいる家庭は、「どちらでもない」の回答をしています。

本への関心について(小学生)



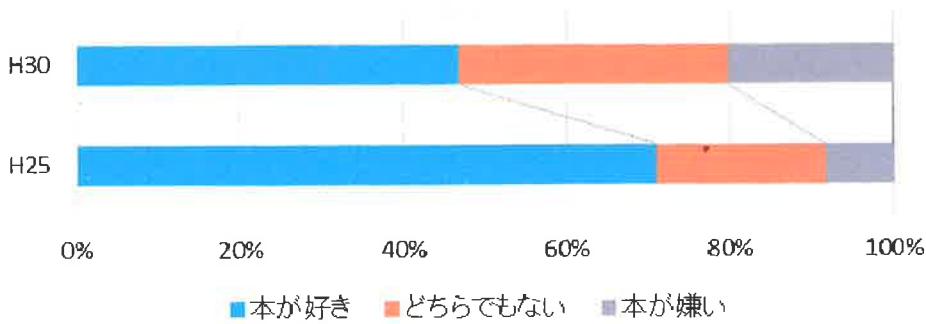
本を好きな児童が増えています。理由は学校司書の配置、ボランティアによる「読み聞かせ」や「ブックトーク」が影響していると思われます。

本への関心について(中学生)



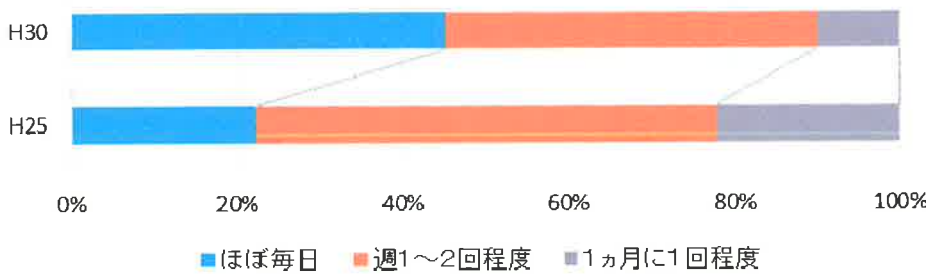
本を好きな生徒が減り、嫌いな生徒が増えています。一方で学校図書室の利用が増えているので、工夫していく必要があります。

本への関心について(高校生)



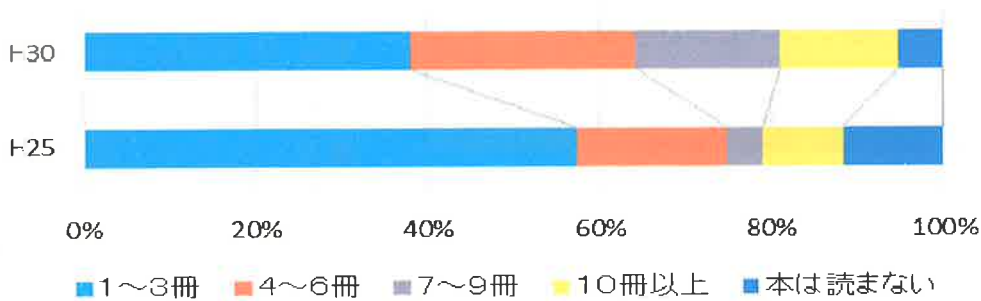
中学生と同じく本を好きな生徒が減り、嫌いな生徒が増えています。読書環境を整備する必要があります。

読み聞かせの頻度(乳幼児)



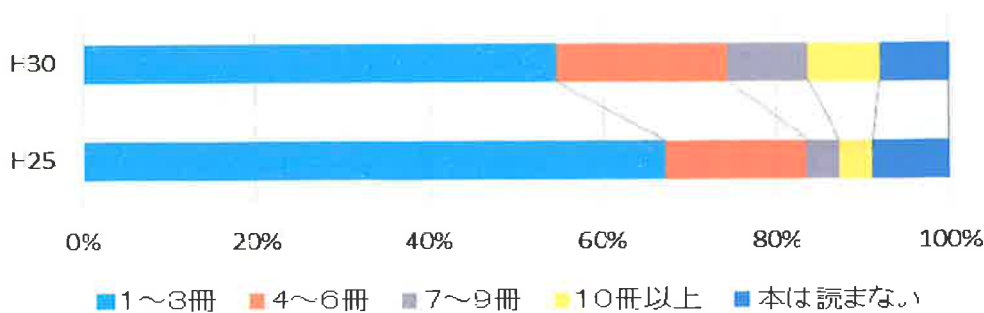
週1~2回、ほぼ毎日読み聞かせする人が9割を占めています。絵本を通して「ことば」「ぬくもり」の大切さが、地域に広まっていることがわかります。

1カ月の読書量について(小学生)



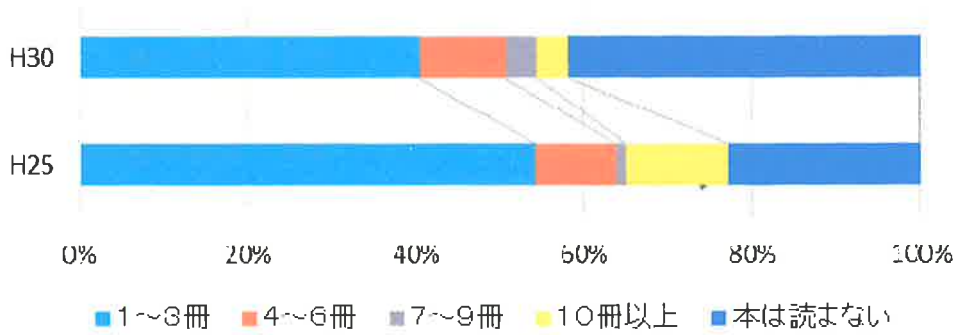
本を読まない児童が減り、多くの冊数を読む児童が増えています。

1か月の読書量について(中学生)



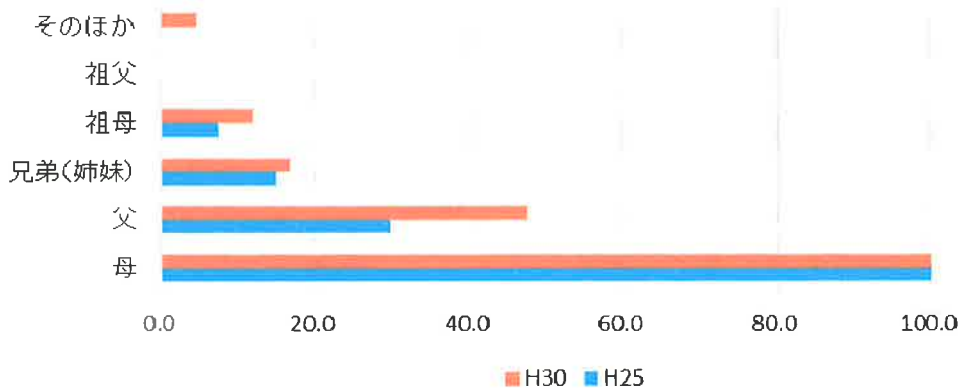
本を好きな生徒は減っているが、読書の冊数は増えています。

1ヶ月の読書量(高校生)



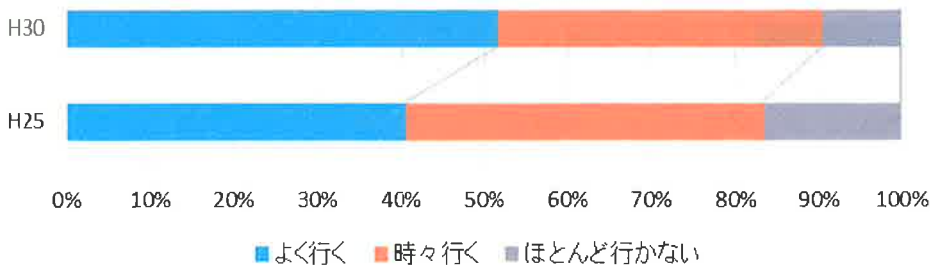
高校生は読書離れの傾向がみられます。本に関心を持つ取り組みが必要です。

家庭において主に読み聞かせをする人について(複数回答可) (乳幼児)



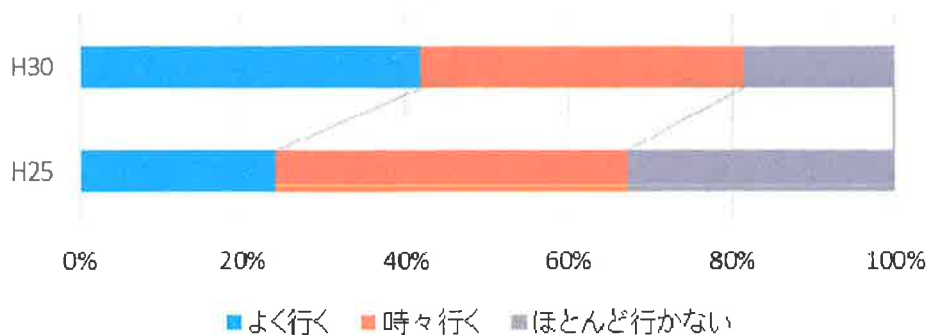
お父さん、兄弟、祖母の読み聞かせが増えています。そのほかの回答は「おば」でした。

学校図書室の利用について(小学生)



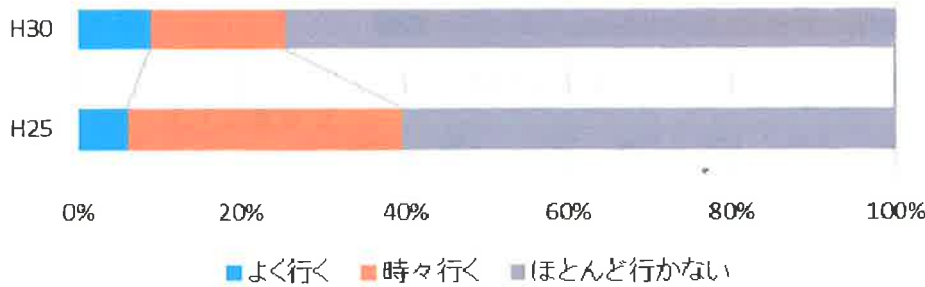
平成28年度から学校司書を配置し、環境整備をしたことで利用者が増えたことが分かります。

学校図書室の利用について(中学生)



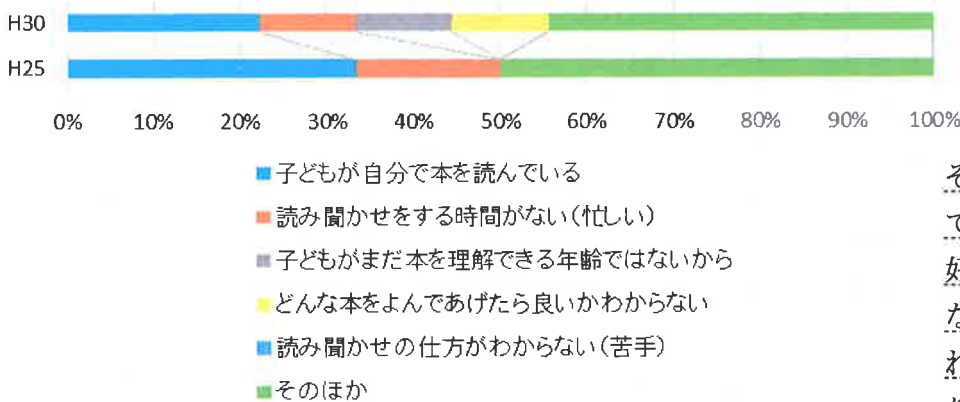
平成30年度から学校司書を配置し、環境整備をしたことで、利用者が増え、利用していなかった生徒が減っています。

学校図書室の利用について(高校生)



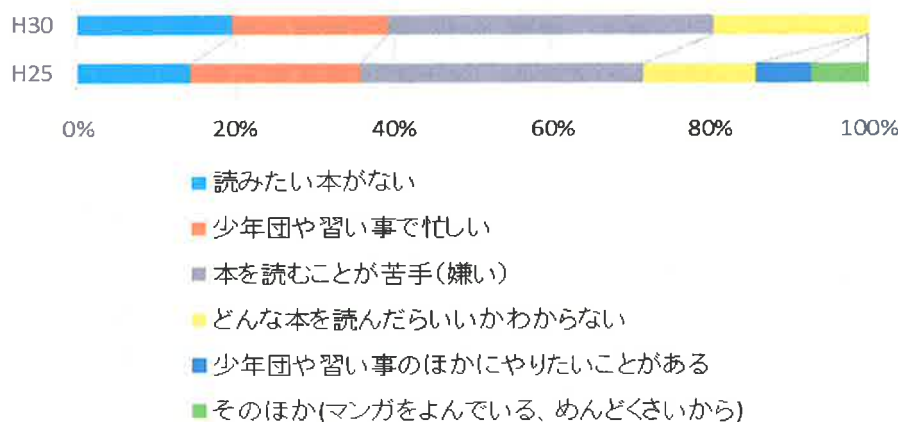
学校図書室を利用しない生徒が4分3となつています。高校には学校司書を配置しておらず、今後図書室の環境整備をする必要があります。

読み聞かせをしない理由(乳幼児)



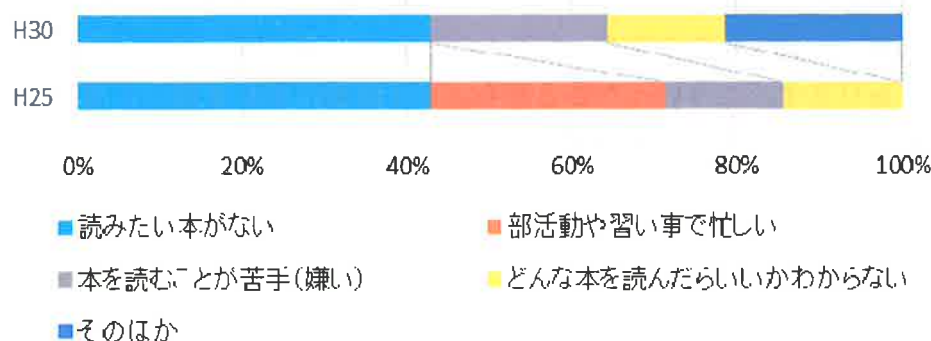
そのほかの理由としては、「ほかの遊びが好き」、「集中して聞かない」、「読んでと言われれば読む」などがありました。

本を読まない理由(小学生)



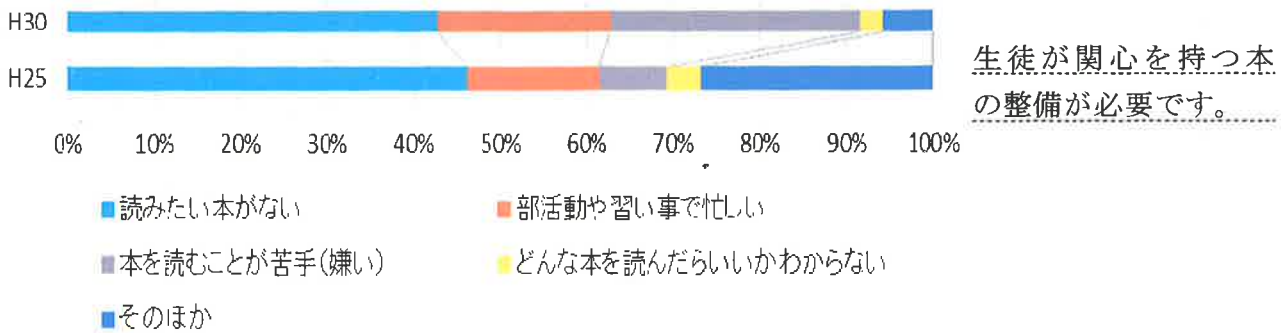
「どんな本を読んだらいいかわからない」、「読みたい本がない」が4割を占めており、児童へのアドバイスの必要性が伺えます。

本を読まない理由(中学生)



本選びをアドバイスする必要があります。「そのほか」では本より違う趣味があるという回答がありました。

本を読まない理由(高校生)



(2) 成果と課題

乳幼児期の成果としては、ブックスタート（赤ちゃんと保護者が絵本を開く楽しい体験のこと）事業を取り組んできました。この事業は絵本の館スタッフが親子に読み聞かせ体験をしたあとに、ブックリストから選んでいただいた0歳用の絵本をプレゼントをしているもので、親子での本への親しみが広がっています。また、ぷっちーなブックまつりでは就学前の子どもに対し年齢ごとに選本したブックリストから好きな絵本を選んでいただき、毎年1冊ずつ贈呈しています。この取り組みで絵本を読む機会が増え、「本が好き」「読み聞かせをしている」という結果につながっています。課題では、読み聞かせの仕方や絵本の楽しみ方が分からない方もおり、誰もが楽しく親子体験できる仕組み作りが必要です。

小学校は、剣小道7か条の一つに「読書に親しむ剣小っ子」があり、週1回の朝読書に取り組んでおります。また、ボランティアによる休み時間を利用した「読み聞かせ」、テーマに沿って複数の本を紹介する「ブックトーク」で読書意欲を起こさせる活動を行っています。そして、平成28年度から学校図書室に学校司書を配置し環境整備を行ったことで、本への関心が高まり読書量増につながっています。課題では学校図書室の数多い本の中から自分に合った本の選び方が分からない児童もいるため、子どもに寄り添ったアドバイス等が必要です。

中学校は、毎日朝読書に取り組んでおります。しかし、部活動や塾等でなかなか時間が作れない状況で、本だけに特化することも難しくなってきました。平成30年度から学校図書室に学校司書を配置し環境整備をしたことで、読書量が何倍にも増えました。今後は、生徒がどのような本が読みたいのかなどを研究し、読書を普及させることが必要です。

高校は、本を好きな生徒が減り、読書をする生徒も減ってきております。また、学校図書室の利用は、ほとんどが利用していない状況となっており、読書離れが見られます。高校生も中学生と同様に部活動や習い事等でなかなか時間が作れない状況と、通学時間を考えれば時間を作るのが大変難しい状況にあります。しかし、これから社会に出ていくうえで本から学ぶことも数多くあります。こういったことから、まず読書に関心を持ってもらうことが第一です。そのためにも図書室の環境整備が必要となります。

2 計画の具体的な方針

(1) 家庭・地域・学校・保育所それぞれにおける取り組みの充実と連携

乳幼児期の本との出会いから、保育所での絵本の読み聞かせ、学校での読書の時間や授業での読書活動、家読、地域の読書活動の気運の醸成やボランティアの支援等の取り組みを充実させると共に、互いの実践を広く周知したり、協力したりすることで連携を図っていきたいと考えます。

(2) 絵本の館・学校図書室の機能の整備と充実

学校図書室と絵本の館との情報共有をすると共に、新作図書の情報発信や読み聞かせ会などの催し企画を充実させ、質的な整備を目指します。司書が配置されていない学校図書室においては、学校司書及び絵本の館司書、司書教諭が連携協力しながら環境整備を図っていきたいと考えます。

(3) 読書・読み聞かせボランティアの育成と支援

剣淵町ではこれまでも有志による読み聞かせボランティア活動がなされてきました。学校や保育所、福祉施設やイベントに依頼されたりと、多くの読み聞かせ活動をしています。こういった取り組みは、子どもに読書の楽しさや喜び、家族での話題を生み出す貴重なものです。また、小学校で実施されている「ブックトーク」は良書との出会いにつながる活動です。これらのボランティアによる読書推進の活動をより一層活性化させるためにその育成や支援に努めます。



第3章 子どもの読書活動推進のための取り組み

1 家庭・地域における子どもの読書活動の推進

(1) 家庭における取り組み

家庭における読書は、子どもの読書習慣の基礎を身につける上で非常に大切なことです。子どもたちは身近にいる大人が使う言葉によって、自分の言葉を育て、未知への興味や関心を育てていきます。

特に、乳幼児への読み聞かせは、子どもの「ことば」への興味と関心を育てると同時に、子どもの心を育てる、親と子のコミュニケーションの場としても重要な意味を持っています。

しかし、多忙な社会の中で、子どもの読書活動に関心を向ける精神的・時間的なゆとりがない家庭も見られ、必ずしもよりよい読書環境が整えられてはいない現状があります。

剣淵町ではこれまでもブックスタート、ぷっちなブックまつり、読み聞かせ活動の取り組みや乳幼児と保護者で参加する「ちびっこ遊びタイム」を絵本の館で実施するなど、絵本と接する場を提供してきております。今後も、乳幼児期・児童生徒期など、子どもの発達の段階に応じた読書推進について、保護者の理解を深めるための啓発や支援に努め、家庭における子どもたちの読書環境の充実を支援します。

◇◆具体的な取り組み◆◇

- 親子で読書を始める方へのアドバイス
- 家読の啓発・推進
- 広報紙等に「今月の1冊」を紹介するコーナーを設置
- 子どもたちが家庭で本に親しむための啓発・支援の充実



(2) 地域における取り組み

絵本の里づくりとして実施している「絵本の里大賞」を、親子や子どもたちにもっと参加していただけるよう工夫し、読書環境を広げていきます。また、地域の催事等での読み聞かせの機会を充実していきます。

◇◆具体的な取り組み◆◇

- 絵本の里大賞のPR
- 乳幼児健診を活用して子どもの好きな本の傾向についてのアドバイス
- キャラバンカーの活用（催事、各公民館分館事業、サロン事業等）
- 子育て支援関係事業との連携
- 巡回文庫

2 絵本の館・学校図書室における子どもの読書活動の推進

(1) 絵本の館における取り組み

町の読書活動推進の第一の拠点として、子どもたちに限らず、誰もが気軽に自らの意思に応じて読書活動に親しむことができる場として、多くの方に絵本の館に足を運んでいただけるよう、魅力的な資料の収集や図書紹介や情報提供等の工夫を図ります。

特に子どもたちが、自分たちの力で本を自由に選択し、読書の楽しさによるこびを知ることができる、利用しやすい環境を整備する他、より豊かな読書環境を提供すると同時に、保護者に対しても子どもに読ませたい本の選択・相談に対する体制づくりを進めます。また、絵本の館から学校図書室への貸出しを行うなどの連携を深め、子どもたちの読書環境を広げていきます。

◇◆具体的な取り組み◆◇

- レシート手帳の実施
- 赤ちゃん絵本セットの貸出し
- 除籍本の配布（公共施設設置型）
- 新書の情報発信
- どこでも図書館
- ブックスタート事業（継続）
- ぷっちなブックまつり事業（継続）
- わくわく放課後タイム、土曜おはなし会、小学校特別授業との連携



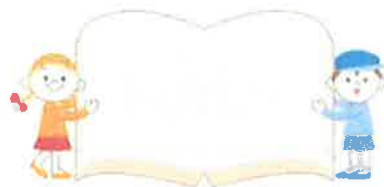
(2) 学校図書室における取り組み

学校図書室は、学校の教育活動全般を支え、児童生徒の望ましい読書習慣の形成および、創造力の育成、学習に対する興味・関心を喚起する上で、重要な役割を果たすものです。また、高度に情報化した社会に対応していくために、情報を収集、選択、活用する能力を養う場としても重要です。

そのため学校教育においては、学校図書室に関わる業務や指導等について司書教諭、学校司書を中心に全ての教職員が学校図書室の役割や意義について十分に理解し、運営に積極的に関わることが望まれます。様々な教科を担当する教師が、それぞれの立場で多角的に運営に関わることが極めて重要です。

◇◆具体的な取り組み◆◇

- 子ども同士によるおすすめ絵本の紹介
- 本選びのアドバイス
- 図書を活用した学習
- 学校図書室の環境整備



3 読書・読み聞かせボランティアの活動支援

剣淵町では、子どもたちへの読み聞かせを行っているボランティアの方々があります。こうしたボランティアによる取り組みが子どもたちと本との出会いを支援する活動と

して、これまでも大きな役割を担ってきました。

今後もボランティアと絵本の館との連携強化を図り、活動を支援することにより、子どもの読書活動の推進に努めます。また、道主催の研修講座等の紹介をしたり、町独自でも企画、実施したりすること、さらに保育期間や教育機関での実施を支援することで、活動の活性化を図ります。

◇◆具体的な取り組み◆◇

- 読み聞かせボランティアの育成
- 読書活動団体への支援
- 研修講座への参加
- 書籍購入支援
- 各団体同士の連携



「第2期絵本の里けんぶち子ども読書推進プラン」

(剣淵町子ども読書活動推進計画)

プランの期間 : 平成31(2019)年度から令和5(2023)年度

読書推進の対象 : 0歳~おおむね18歳

【基本理念】

剣淵町のすべての子どもが、いつでもどこでも、
自ら読書に親しむことができる環境をつくり、
家庭・地域・学校等が一体となって、
「絵本の里けんぶち」らしい次世代を育てます。

【プランの内容】

①家庭・地域における
子どもの読書活動の推進

②絵本の館・学校図書室
における子どもの読書
活動の推進

③読書・読み聞かせボラ
ンティアの活動支援

【プラン策定の経過】

月 日	内 容
平成 30 年 4 月 23 日	社会教育委員及び公民館運営審議会委員合同会議にて報告
平成 30 年 6 月 15 日	教育委員会議にて報告
平成 30 年 6 月 15 日	第 1 回子ども読書推進プラン策定委員会議
平成 30 年 6 月 20 日	アンケート実施（乳幼児保護者・小学生・中学生・高校生）
平成 30 年 10 月 24 日	第 2 回子ども読書推進プラン策定委員会議
平成 31 年 1 月 31 日	第 3 回子ども読書推進プラン策定委員会議
平成 31 年 3 月 13 日	社会教育委員及び公民館運営審議会委員合同会議にて報告
平成 31 年 3 月 18 日	第 4 回子ども読書推進プラン策定委員会議
平成 31 年 3 月 25 日	教育委員会議にて報告

【プラン策定会議委員名簿】

委員数：15 名

任 期：平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月

氏 名	委員区分	所属機関・団体名
高橋 富士子	指名委員	社会教育委員
窪井 たま	指名委員	社会教育委員
大居 晴彦	指名委員	社会教育委員
松林 貴子	推薦委員	剣淵小学校図書担当教諭
安田 邦彦	推薦委員	剣淵中学校図書担当教諭
大石 由希	推薦委員	剣淵高等学校図書担当教諭
藤井 美保	指名委員	剣淵小学校学校司書
根本 奈緒	指名委員	剣淵中学校学校司書
門間 美樹	推薦委員	けんぶち絵本の里を創ろう会
小柳 美和	推薦委員	おはなし会芽ぶっく
村岡 眞理子	推薦委員	Read and Talk（リト`アト`トーク）
原田 祐志	推薦委員	子供会育成連合会
松浦 由香	推薦委員	P T A 連合会
佐藤 優子	推薦委員	町職員（剣淵町保育所）

